

ブロック玩具ロボ 全国大会へ



全国大会に挑む「温泉ファーマーズ」と「カポスブラザーズ第四世代」のメンバー。後列左は指導する甲斐智希さん。大分市。

【大分】ブロック玩具を使った自律型ロボット競技の団体戦ファーストレゴリーグ（FLI）の全国大会（2月12日・東京）に、大分市の進学教室アイック学園でプログラミングを学ぶ小中学生の2チームが出場する。上位が出場権を獲得できる世界大会を目指し、「1位、2位と一緒に行く」と張り切っている。

出場するのは田原慎之丞さん（15）川田中3年、田子森順顕さん（13）三才中2年、富家奈月さん（14）大分大付中2年、の「温泉ファーマーズ」（大分校）と、長愛絆さん（14）大東中2年、平野壮磨さん（14）大分中2年、梅田倅二朗君（11）大分大付小6年、農蘇正真君（10）明野東小4年、の「カポスブラザーズ第四世代」（明野校）。

大会はロボットゲームの点数やデザイン、チームワーク、プレゼンテーションなどの総合評価で競う。昨年12月に福岡県であった九州大会で、「温泉」は総合3位、「カポス」は同3位になり、全国切符を得た。

大分県からの2チーム同時出場は初めてという。

「温泉」はロボットデザインで九州トップの評価を受けた。それでも全国で競うには改善点が多く、田原さんは「九州大会でうまくいかなかったところを修正し、より良いロボットを完成させたい」と意気込む。

「カポス」はチームワークの良さを示すコアバリューが最高評価だった。長さんは「チームの良さは全部出せた。その他は未完成で改善の余地がある」。

全国大会には各ブロックを勝ち抜いた40チームが出場し、上位6チームが世界大会に進む。両チームとも全体の基礎となるロボットゲームで点数を積み上げ、全国優勝を狙う。

FLIはプログラミング教育などを実現する場。指導する同学園講師の甲斐智希さん（29）は「0から1をつくり、1を100にする工夫を続けてきた。大分の仲間であり、良きライバル。高め合い、一緒に頑張っていきたい」と期待している。

（富家大輔）

2チーム、上位に意欲